

「後期」募集“縮小・廃止”で、「推薦・AO」が 国立大 15.2%、公立大 24.7%の過去最高に！

京都大は「前期」募集のみ、「後期・推薦・AO」募集ゼロ。全医学部(医)で定員増。国立 42 大学・361 人、公立 8 大学・80 人程度の増員予定。

旺文社 教育情報センター 20 年 9 月

21 年入試の『入学者選抜要項』が、先ごろ各国公立大から発表された。

国公立大では 18 年からの分離分割方式の募集人員分割の弾力化や、20 年からの国立大募集人員の「推薦＋AO 入試 5 割の範囲」とする緩和措置で、21 年入試でも後期募集を縮小・廃止して前期募集や推薦・AO 入試に振り替える大学・学部が難関大を中心に続出している。その結果、「推薦・AO」募集人員は国立大 15.2%、公立大 24.7%と過去最高に達した。

また、医師不足や偏在を解消するため 20 年から、医学部(医学科)の定員増が図られている。21 年は、国立大 42 校、公立大 8 校の全医学部で 440 人ほどの定員増が予定されている。

21 年の受験生数予測

大学受験生数は、5 千人減の 66 万 5 千人に!?

過去 10 数年の 18 歳人口・高校卒業生数の推移をみると、11 年までのやや大きな減少、12 年～14 年の下り階段の“踊り場状態”、15 年～19 年の減少率 2～3%程度を経て、20 年は前年比約 5%の大幅減となった。21 年は、再び 2%程度の小幅な減少が見込まれる。

20 年の大学進学状況をみると、短大や専門学校への進学志向の低下に対し、大学への志望の高まりなどで、現役志願率は 19 年より 1.6 ポイントアップの 53.5%であったが、高校卒業生の大幅減(前年比 5.1%減)から、現役受験生は約 1 万 2 千人(前年比 2.1%)減の 58 万 3 千人。また、浪人の大学受験生数も 19 年より約 7 千人(同 7.7%)の減少で、8 万 7 千人。現役・浪人合わせた大学受験生数は、19 年より約 2 万人(同 2.8%)減の 67 万人であった。

ところで、大学進学を裏打ちする経済情勢を見渡すと、原材料の世界的な高騰や世界規模の金融不安などで国内経済も大きな影響を受け、景気の減速・低迷が伝えられている。

21 年は 18 歳人口・高校卒業生数の小幅な減少の下で、上記のような大学受験動向は来年入試にも大筋で引き継がれるとみられる。今後の景気動向には注意を要するが、21 年の大学受験生数(実数；浪人含む。高等学校卒業程度認定試験<以下、高認>合格者等を除く)は、20 年より約 5 千人(0.7%)減の 66 万 5 千人程度と予測される。

一般入試 センター試験

セ試出願者数は、前年とほぼ同じ 54 万 3 千人前後か!?

“セ試課す” 推薦・AO 入試が拡大。

<セ試の出願予測>

21 年のセンター試験(以下、セ試)志願者数(浪人、及び高認合格者等含む)は、高校卒業生

数が前年比-2.0%(20年は前年比-5.1%)と小幅な減少が予測される中、セ試現役志願率のアップ傾向、私立大セ試利用入試の拡大(21年は18大学50学部増の484大学1,366学部;20年3月末現在)と人気等を勘案すると、20年とほぼ同じ54万3千人前後とみられる。

＜試験日程＞

21年セ試は、20年10月1日(水)から10月14日(火)まで出願受付が行われ、21年1月17日(土)・18日(日)の両日に本試験が実施される。正解等は、1月17日・18日のそれぞれについて、当日の試験がすべて終了した後、大学入試センターのホームページ等で発表される予定である。平均点等の中間発表は1月21日(水)、得点調整実施の有無の発表は1月23日(金)の予定。追試験は、1月24日(土)・25日(日)に行われる。

＜受験教科・科目＞

◆セ試の出題教科・科目

セ試の出題教科・科目は6教科28科目で、外国語の英語では「筆記試験」のほかに「リスニングテスト」が実施される。

◎ 英語リスニングテストの利活用

セ試英語の受験者は全員、リスニングテストが必須となっている。大学には筆記試験(200点満点)とリスニングテスト(50点満点)のそれぞれの得点が大学入試センターから提供されるが、外国語の他の科目(200点満点)との換算方法や配点の割合なども含め、リスニングテストを合否判定に利用するか否かは、各大学・学部(学科)によって対応が異なる。

① リスニングテストを利用しない一部の国公立大

国立大でセ試の英語リスニングテストを全学(全ての選抜方法含む)で利用しない大学はみられないが、筑波技術大(聴覚・視覚障害者を対象)ー産業技術(保健科学は利用)、東京大ー前期日程(以下、前期または(前)と表示)の全科類(後期日程<以下、後期または(後)と表示>は20年から利用)、及び滋賀医科大の一般選抜(推薦は利用)では利用しない。

公立大では前橋工科大・長野県看護大・奈良県立大・香川県立保健医療大の4大学(会津大は外国語を課さない)が全学で利用しない。

② リスニングテストの配点

英語の配点(素点)は前述したように250点満点となるが、他の外国語4科目は筆記試験のみの200点満点で、素点の段階で両者の間に格差が生じる。そのため、多くの大学・学部では「筆記200点・リスニングテスト50点を200点に換算」(80%に圧縮。筆記:リスニングテスト=4:1に配分)している。例えば、外国語200点であれば筆記160点、リスニングテスト40点となり、150点であれば筆記120点、リスニングテスト30点となる。

③ 筆記試験との比較

信州大ー人文(前・後)、教育<理数科学教育>(前)／下関市立大ー経済(前・中期日程<以下、中期または(中)と表示>)では、筆記試験のみ(200点満点)と、筆記試験+リスニングテスト(250点満点を200点満点に換算)の得点を比較し、高得点の方を採用する。

◆セ試「7科目」入試の状況

① セ試5教科7科目以上を課す大学・学部

21年にセ試5教科7科目以上を課す大学・学部数は、国立78大学342学部、公立32大

学 56 学部の合計 110 大学 398 学部で、20 年と同じ。対象となる募集人員は国立大 7 万 4,534 人(入学定員に対する割合 77.6%)、公立大 5,865 人(同 22.6%)で、全体としては 8 万 399 人(同 65.9%)となり、20 年より 11 人の増加となる。(表 1・2 参照)

(表 1)

●センター試験で5教科7科目以上を課す大学・学部数

区分	21 年		20 年		対前年増減		
	大学	学部	大学	学部	大学	学部	
国立大	78 (95.1%)	342 (90.7%)	78 (95.1%)	340 (90.2%)	±0	2	
公立大	32 (43.2%)	56 (33.5%)	32 (43.8%)	58 (34.9%)	±0	-2	
合計	110 (70.5%)	398 (73.2%)	110 (71.0%)	398 (73.3%)	±0	±0	
全体	国立大	82	377	82	377	±0	±0
	公立大	74	167	73	166	1	1
	合計	156	544	155	543	1	1

注.()は、全体数に対する割合。(文部科学省資料より)

(表 2)

●センター試験で5教科7科目以上を課す募集人員

区分	21年	20年	対前年増減(人)	
国立大	74,534(人) (77.6%)	74,547(人) (77.8%)	-13	
公立大	5,865(人) (22.6%)	5,841(人) (23.1%)	24	
合計	80,399(人) (65.9%)	80,388(人) (66.3%)	11	
全体	国立大	96,020(人)	95,868(人)	152
	公立大	25,945(人)	25,322(人)	623
	合計	121,965(人)	121,190(人)	775

注.()は、全体数に対する割合。(文部科学省資料より)

② 国立大の動き

各国立大では、16 年から国立大学協会(以下、国大協)のセ試「5 教科 7 科目」(国大協では地歴と公民を合わせて 1 教科<社会>として表示)提言を受け、5 教科 7 科目以上を課す大学が定着している。21 年は上記のように、大学・学部ベースで 9 割以上、募集人員ベースで 8 割近くがセ試 5 教科 7 科目以上を課している。

21 年入試でセ試 7 科目を課さない国立大は、筑波技術大・東京外国語大・東京芸術大・鹿屋体育大の計 4 大学だけである。ただ、学部単位で見ると、中堅校の後期を中心に科目減の傾向が見られる。

③ 公立大の動き

公立大で 5 教科 7 科目以上を課す大学は 16 年 19 大学(全公立大の 26.0%)、17 年 28 大学(同 38.9%)、18 年 32 大学(同 44.4%)と徐々に増えてきた。しかし、19 年～21 年は 18 年と同じ 32 大学に留まり、実施率は大学単位では 4 割超でほぼ定着の様相だ。また、募集人員ベースでは、対象人数は微増であるが、入学定員に対する割合は 0.5 ポイントダウンの 22.6%となっている。

なお、岩手県立大一ソフトウェア情報はこれまで、セ試を課さない「前期」のみであったが、21 年から、セ試を課す「前期 B」(「前期 A」はセ試免除)と「後期」(セ試課す)を新設した。

◆セ試の受験パターン

21 年セ試で課せられる教科数の状況を、国立大と公立大別に図 1 に示した。

国立大では 5 教科以上を課す学部が圧倒的に多いが、公立大では 3、4、5 教科に分散している。国立大を中心とした 5 教科 7 科目以上の編成は、次の 3 タイプに類型化される。

①文系型	国語+地歴+公民+数学(2)+理科(1)+外国語
②理系型	国語+「地歴・公民」から(1)+数学(2)+理科(2)+外国語
③混在型	国語+「地歴・公民・理科」から(3)+数学(2)+外国語、など

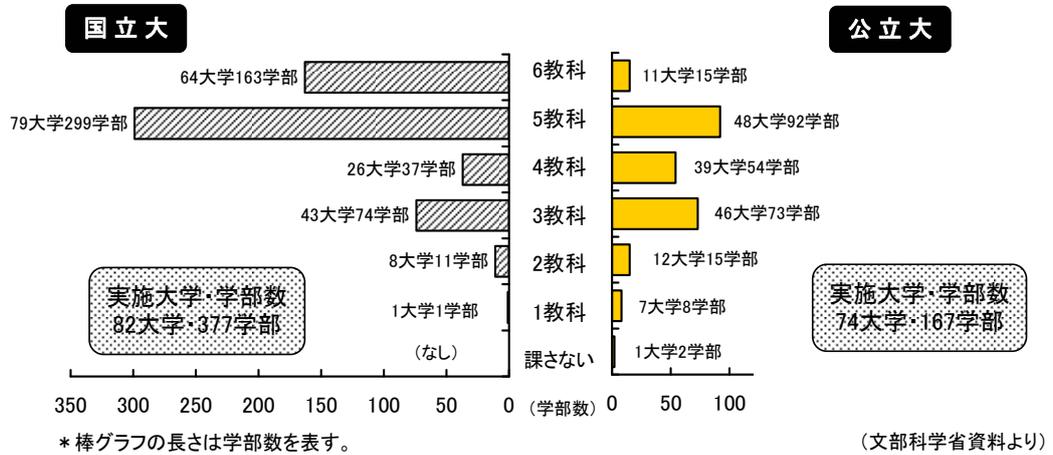
(注.()内の数字は科目数。)

①と②は、それぞれ文系と理系学部で最も多い、標準型ともいえるタイプである。

③の混在型は 7 科目であるが、この型には国語・外国語のほかに、「地歴・公民・理科か

ら3科目+数学2科目」や、「地歴・公民・理科・数学から5科目」のような教員養成系に多いタイプのほか、「地歴+公民+理科2科目+数学1科目」や「地歴+公民+数学・理科から3科目」のように文系型に近いタイプもみられる。

●21年センター試験教科数&実施大学・学部数 (図1)



◎ 難関大、医学部等での「“セ試課す”推薦・AO」入試の拡大

難関大や医学部などの推薦・AO入試では、セ試を課す、所謂“セ試課す”推薦・AO入試が多くみられる。

例えば、一橋大・商では後期やAO入試(専門高校対象、セ試免除)を廃止して、前期を増員するとともに、“セ試課す推薦”(一般及び専門高校)を導入。旭川医科大・医(医)では従来のセ試免除のAO入試を廃止し、セ試を課す「AO入試北海道地域枠」を実施する。

◎ 医(医)の理科3科目入試

国立大の理系ではほとんどが理科2科目となっている中で、国公立大の医学部(医)では理科3科目化が進んでいる。21年入試では、これまでの旭川医科大・京大・九州大・佐賀大・京都府立医科大・大阪市立大・奈良県立医科大に加え、岡山大と徳島大でも理科3科目の5教科8科目となる。ただ、その一方で、これまで理科3科目を課していた大阪大が理科2科目となり、5教科7科目に軽減される。

<セ試個人成績の開示>

大学入試センターでは、セ試の個人成績(受験科目別。国語は出題分野別、英語は「筆記」と「リスニング」別)の本人開示を実施している。

出願時の志願者本人の希望に応じて、21年4月16日(木)以降に書留郵便で通知する。

申込方法は、「志願票(提出用)」に成績通知の希望を記入し、成績開示手数料(800円)を検定料と併せて20年9月1日(月)~10月14日(火)までに払い込む。

一般入試	2次試験
国立大、公立大とも募集人員は、「前期」=増、「後期」=減、「推薦・AO」=増。後期試験で科目減の傾向。	

<入試日程>

21年に入試を実施する国公立大は、国立82大学377学部、公立74大学167学部の合計

156 大学 544 学部である。

2 次試験は、21 年 1 月 26 日(月)～2 月 4 日(水) まで出願受付が行われ、前期 (2 月 25 日<水>から)・中期 (3 月 8 日<日>以降；一部の公立大のみ)・後期 (3 月 12 日<木>以降) の各日程で実施される。

なお、公立の国際教養大と新潟県立大は、独自の別日程試験で実施する。

<「分離分割方式」の弾力化と募集人員>

◆「後期」の縮小・廃止と「推薦・AO」の拡大

国公立大の 2 次試験は、公立大の中期を除き、同一募集単位の入学定員を前期と後期とに振り分ける「分割」と、前期の合格者が入学手続きを完了してから後期試験を行うという、前・後期試験の「分離」とを組み合わせた「分離分割方式」によって実施されている。この方式では、前期に合格して入学手続きを完了した者は、後期(公立大中期も含む)に出願、受験しても入学の意志がないとみなされて合格とならない。ただ、教員養成系の専攻・コースなどのように募集人員の少ない場合や実技を主とする芸術系、体育系では「前期のみ」や「後期のみ」の募集も従来から「例外措置」として認められてきた。

しかし毎年、前期募集人員の占める割合が高まっていく中で、特に国立大からは難関大を中心に前期集中化への要望が強まり、国大協は 18 年入試から、「分離分割方式を維持しつつ、学部単位でみて推薦入試やAO入試を前提に、前期のみや後期のみの募集も可能」とする分離分割方式の弾力化を打ち出した。

公立大学協会(公大協)も、国大協の弾力化の措置に準じている。

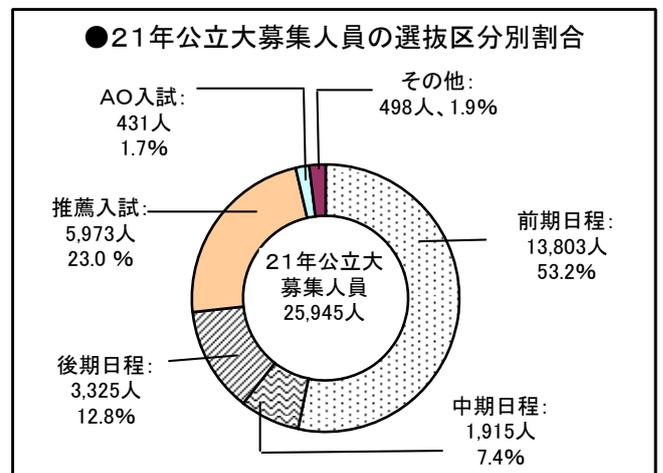
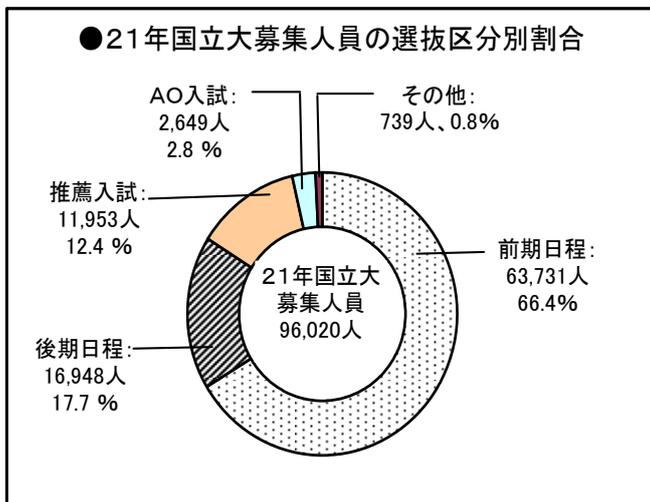
このような分離分割方式の弾力化を受け、従来の「例外措置」に加え、後期募集を縮小・廃止して、「前期集中化」や推薦・AO入試の導入・拡大を図る大学・学部が目立つ。

21 年国公立大の日程・選抜方式別の募集人員を 20 年と比べると、後期 503 人(2.4%)減、前期 343 人(0.4%)増に対し、推薦・AO入試は 839 人(4.2%)増えている。(図 2・3 参照)

大学・学部(学科)別では、東北大一文、一橋大一商、京大一医(人間健康科学)、九州大一教育・医(保健)、大阪市立大一医(医)などで後期を廃止。京大では全学部が「前期のみ」の募集(人間健康科学科は後期分を前期に上乘せ)となり、推薦・AO入試は行わない。他は前期の増員(上記で九州大一教育以外)の他、推薦入試の新規実施(一橋大一商<AO入試廃止>)やAO入試の新規実施・増員(新規実施=東北大一文、九州大一教育、増員=九州大一医<保健>)が図られる。

(図 3)

(図 2)



注「その他」は社会人入試、帰国子女入試など。(文部科学省資料より)

◆一般入試の募集人員と難関大「前期集中化」

推薦入試などの特別選抜やAO入試、専門高校・総合学科卒業生選抜及び別日程入試の公立の国際教養大(130人)と新潟県立大(240人)を除いた、一般入試の総募集人員は9万9,722人(国立大8万679人、公立大1万9,043人)で、20年『入学者選抜要項』記載の募集人員より184人(0.2%)の減少となった。(表3参照)

試験日程別の募集人員は、前期7万7,534人(前年比0.4%増)、後期2万273人(同2.4%減)、及び公立大中期1,915人(前年より24人減;公立大のみ)となっている。

分離分割方式の前期と後期の募集人員の割合をみると、前期は平成2年の77.5%から9年(前回の新課程入試初年度)の72.1%まで減少した後、10年からは毎年上昇を続け、21年=前期79.3%(20年78.8%)、後期=20.7%(同21.2%)となっている。国立大の前期は、16年=74.3%→17年=74.7%→18年=76.1%→19年=77.7%→20年=78.8%→21年=79.3%と、18年からの「前期集中化」の急増ぶりをうかがわせている。

今や、国公立大一般入試における「前期」:「後期」の比率はおよそ8:2で、特に難関大での前期募集は9割近くに達し、その比率の高さが目立つ。(表4参照)

●21年国公立大一般入試/地区別・日程別募集人員 (表3)

地区	前期(人)	後期(人)	中期(人)	合計(人)
北海道・東北	11,074	2,684	125	13,883
関東・甲信越	20,872	5,675	669	27,216
北陸・東海	10,199	2,831	256	13,286
関西	13,717	3,349	612	17,678
中国・四国	10,225	2,563	253	13,041
九州	11,447	3,171	0	14,618
全国合計	77,534	20,273	1,915	99,722
割合	79.3(%)	20.7(%)	-	-
	77.8(%)	20.3(%)	1.9(%)	-

注 ① 21年「選抜要項」(20年7月末)による。地区の区割りは旺文社による。
 ② 人数は推薦入試等の特別選抜、AO入試、専門高校・総合学科卒業生選抜及び公立の別日程入試を除く。③ 「割合」の上段は前・後期日程内、下段は総募集人員(前・後・中期日程)内の割合。

(表4)

●国公立難関大 日程別募集人員と前期募集割合の推移

大学名	20年		21年		前期募集割合	
	前期	後期	前期	後期	20年	21年
北海道大	1,918	465	1,945	465	80.5% →	80.5%
東北大	1,838	123	1,847	93	93.7% →	95.2%
筑波大	1,264	201	1,259	206	86.3% →	85.9%
東京大	2,953	100	2,953	100	96.7% →	96.7%
東京工業大	862	146	862	146	85.5% →	85.5%
一橋大	760	190	840	80	80.0% →	91.3%
名古屋大	1,718	0	1,703	3	100.0% →	99.8%
京都大	2,839	20	2,859	0	99.3% →	100.0%
大阪大	2,547	665	2,552	660	79.3% →	79.5%
大阪市立大	1,151	254	1,189	225	81.9% →	84.1%
神戸大	1,804	544	1,804	544	76.8% →	76.8%
九州大	1,973	350	1,990	319	84.9% →	86.2%

<2次試験科目は、国立大2教科、公立大1教科が最多>

21年の2次試験で課せられる教科数の状況を、国立大と公立大別に図4に示した。国立大、公立大とも学力試験(学科試験)を課さないところが多い。これは、後期で学力試験を課さず、小論文や面接、実技などで選抜しているところが多いためである。

ただ、一般入試の前期試験では1~3教科を課す学部・学科が多く、国立大では2教科、公立大では1教科を課す大学・学部が最も多い。

2次試験科目は全体として後期で軽減の傾向にあるが、21年は次のような大学・学部で負担の増減がみられる。

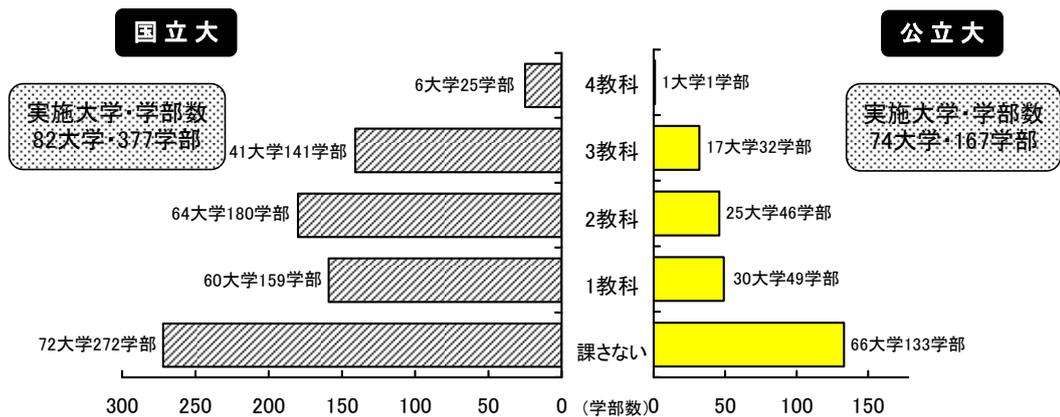
- ・負担増: 弘前大-農学生命科学<分子生命科学>(前)で「理科1科目→化学必須、数学・理科から1」、農学生命科学(後)で「小論文→理科」/横浜国立大-工<物質工>(前)で「総合問題→数学、理科2科目」/信州大-経済(前)で「小論文→国語」/金沢大-薬学類・創薬科学類(前)で「理科1→2科目」(物理・化学の選択→各必須)/静岡大-教育<学校=数学>(後)で「面接→数学」/京都大-工(前)で「国語を追加」、経済(前)の

「論文試験」でセ試の得点を「第1段階選抜のみに利用」とし、「2次の数学→国語・外国語」。また、経済(前)で「理系試験」を新規導入し、セ試7科目と2次3科目(国語・数学・外国語)で選抜。／徳島大－工[昼]＜電気電子工＞(後)で「面接→数学」／高知大－人文＜人間文化＞(前)で「総合問題→国語・英語」／琉球大－教育＜自然環境科学＞(前)で「数学・面接を追加」、など。

- ・負担減：秋田大－教育文化＜教科教育実践・障害児教育・発達科学・人間環境＞(前)で、「英語からリスニングを除外」／筑波大－看護学類(前)で「理科を除外」／一橋大－経済(後)で「論文を除外」、法(後)で「外国語→面接」、社会(後)で「数学・外国語→面接」／信州大－理＜物理科学＞(後)で「数学・理科を除外」、教育＜社会科学教育＞(後)で「小論文を除外」／京都大－文系5学部の前期(総合人間・教育・経済の理系試験を除く)で「数学の出題範囲から数学Cを除外」／神戸大－工(後)で「外国語を除外」／奈良女子大－理＜化学＞(後)で「理科(化学)→課さない」、理＜情報科学＞(後)で「数学→課さない」／福岡教育大－生活教育＜初等＝幼児教育＞(前)で「国語を除外」／前橋工科大－工＜生物工＞(前)で「理科2→1科目」／北九州市立大－外国語＜英米＞(後)で「英語リスニングを除外」、など。

●21年2次試験教科数&実施大学・学部数

(図4)



*棒グラフの長さは学部数を表す。

(文部科学省資料より)

<2次リスニングは低調>

セ試英語に18年からリスニングテストが導入されたのに伴い、2次試験でリスニングテストを課す国公立大は、17年52大学129学部→18年34大学68学部→19年25大学45学部→20年23大学41学部→21年23大学39学部と、大幅に減っている。特に実施学部数でみると、国立大は17年113学部→18年56学部→19年35学部→20年32学部→21年33学部と、4年間で70.8%減の激減ぶりとなっている(図5・表5参照)。

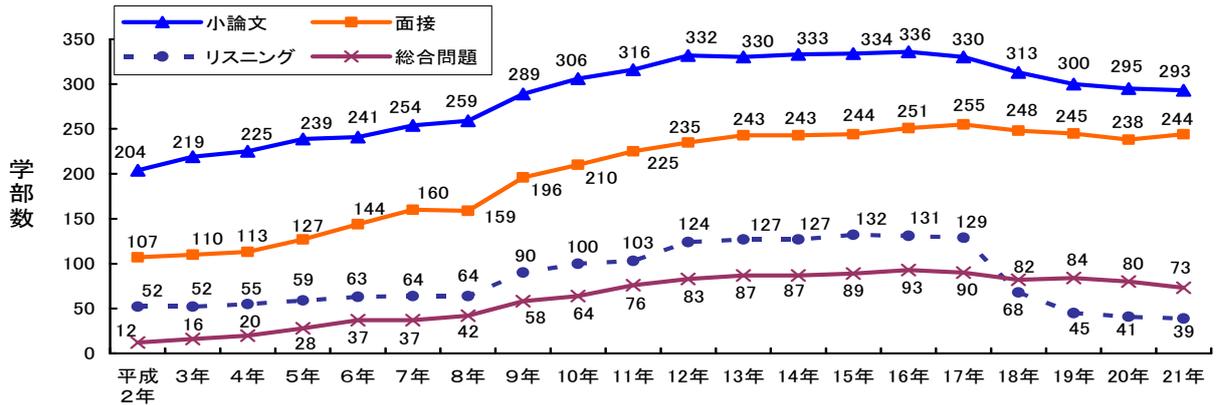
<学外試験場開設の増加>

学外試験場は公立大のほか、16年度の国立大の法人化以降、国立大でも増設が目立つ。

21年は、国立大では岩手大－人文社会科学・工・農(前)が大宮(東京会場を廃止)／山形大－農(前)が山形(農学部所在地は鶴岡市)／香川大－経済・工・農(前)が神戸(西宮市)に、公立大では釧路公立大－経済(中)が盛岡／下関市立大－経済(中)が高松と鹿児島／福岡県立大－人間社会・看護(前)が鹿児島に、それぞれ学外試験場を新設する。

●国公立大で小論文、面接、リスニング、総合問題を課す
学部数の推移（一般入試）

(図5)



●国公立大 入学者選抜概要の推移（学部数/前・後期日程は募集人員割合）

(表5)

内 容		4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	
入学者選抜実施学部		453	460	474	488	500	506	517	530	542	547	550	551	550	549	546	549	543	544	
方式	分離分割方式	241	310	348	378	392	466	475	520	532	537	540	540	540	536	533	537	532	531	
	前期日程(%)	74.8	73.4	73.4	73.1	72.9	72.1	72.3	72.2	73.5	73.9	74.4	74.5	74.8	75.4	76.6	78.0	78.8	79.3	
	後期日程(%)	25.2	26.6	26.6	26.9	27.1	27.9	27.7	27.3	26.5	26.1	25.6	25.5	25.2	24.6	23.4	22.0	21.2	20.7	
日程	連続方式A日程	130	115	110	102	97	13	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	連続方式B日程	93	55	41	31	29	12	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	中期(C日程)	12	12	13	12	12	12	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
センター試験	6教科を課す	-	-	-	-	-	7	7	4	5	6	6	6	144	163	176	180	177	178	
	5教科を課す	366	360	367	373	376	395	399	403	405	407	408	410	386	383	388	387	387	391	
	4教科を課す	80	96	107	115	119	139	146	150	163	169	170	165	109	97	88	92	89	91	
	3教科を課す	110	142	162	172	178	193	195	206	221	222	218	215	170	162	151	153	146	147	
	2教科を課す	12	18	30	35	36	38	41	47	50	50	47	45	39	30	26	24	27	26	
	1教科を課す	1	2	3	3	4	5	5	7	6	8	8	7	6	7	7	7	7	6	9
	課さない	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
	2次試験	4教科を課す	-	-	-	-	-	-	-	20	20	22	22	22	21	21	21	21	24	26
3教科を課す	-	-	-	-	-	-	-	148	154	156	164	169	166	163	171	168	168	173		
2教科を課す	-	-	-	-	-	-	-	249	250	251	251	254	257	254	249	239	227	226		
1教科を課す	-	-	-	-	-	-	-	223	223	218	216	217	213	213	214	208	214	208		
課さない	-	-	-	-	-	-	-	436	445	448	453	453	448	443	416	424	413	405		
選抜方法	小論文	225	239	241	254	259	289	306	316	332	330	333	334	336	330	313	300	295	293	
	総合問題	20	28	37	37	42	58	64	76	83	87	87	89	93	90	82	84	80	73	
	面接	113	127	144	160	159	196	210	225	235	243	243	244	251	255	248	245	238	244	
	実技検査	73	73	74	75	76	78	78	78	78	78	80	80	79	77	79	80	77	76	
	リスニング	55	59	63	64	64	90	100	103	124	127	127	132	131	129	68	45	41	39	
	学力試験課さず、小論文、面接等	246	295	319	339	349	406	415	436	445	448	453	453	448	443	416	424	413	405	
	推薦入試	253	264	284	302	310	330	344	369	389	398	398	402	406	409	401	406	402	408	
	内、「セ試」課す	105	106	107	111	113	118	118	122	125	123	123	122	119	118	121	126	135	140	
	内、「セ試」免除	164	178	201	222	228	246	263	291	321	337	341	343	350	356	349	354	342	342	
	帰国子女	186	208	220	233	234	241	253	267	279	287	287	292	293	292	285	286	278	273	
中国引揚者等子女	41	47	53	55	59	62	66	76	82	82	85	85	81	79	70	67	58	50		
社会人	45	57	69	84	87	107	119	133	149	169	170	179	179	181	182	186	183	183		
AO入試	-	-	-	-	-	-	-	-	12	32	58	73	86	101	122	136	155	164		
専門高校・総合学科卒業生選抜	-	-	-	-	1	6	12	20	21	21	21	21	21	20	20	20	18	15	13	
その他	2段階選抜予告	240	228	222	222	220	210	204	205	200	189	185	185	183	177	175	170	171	164	

注①「-」は実施していないか、公表されていないことを示す。

②連続方式(A・B日程)は国立大8年、公立大10年まで実施。公立大C日程は10年まで(以降は中期日程)。

③公立の国際教養大は16年から、新潟県立大(21年4月開学予定)は21年から、独自の別日程入試を実施。

(文部科学省資料より)

<入学定員、大学統合、学部改編等>

◆21年入学定員

前述の総募集人員(9万9,722人)は一般入試のみであるが、推薦・AO入試や専門高校・総合学科卒業生選抜、社会人選抜なども含めた21年入学定員は国立大9万6,020人、公立大2万5,945人の合計12万1,965人で、国立大は20年より152人増、公立大は623人増である。

ただ、国立大の入学定員については、21年度文部科学省概算要求(予算)に絡み、20年8月末に文部科学省より『21年度国立大学の入学定員について(予定)』が別途発表されている。また、『経済財政改革の基本方針2008』(20年6月末閣議決定。以下、『骨太の方針2008』)における医師養成の増員策(国公立大)も実施される。従って、『入学者選抜要項』(20年7月末までに発表)に記載されている各大学・学部(学科等)の入学定員は今後、医学部医学科(以下、(医)と表示)の定員増を含め、変更される場合がある。

21年度概算要求に基づく国立大の入学定員(『骨太の方針2008』の医学部(医)定員増を反映)は、学部・学科の新設・改組、入学定員の改訂などにより、20年に比べ差し引き316人(0.3%)増員の9万6,272人である。

◆公立大の新設・統合(再編)

- ① 千葉県立保健医療大 ← 千葉県立衛生短大(廃止) + 千葉県立医療技術大学校 健康科学部(4学科); 前期、推薦、社会人入試
- ② 新潟県立大 ← 県立新潟女子短大(廃止)
国際地域学部(1学科)/人間生活学部(2学科); 別日程入試(セ試課す)、推薦、帰国子女
- ③ (新)愛知県立大 ← (現)愛知県立大(廃止) + 愛知県立看護大(廃止)
外国語学部(4学科)/日本文化学部(2学科)/教育福祉学部(2学科)/看護学部(1学科)/情報科学部(1学科); 前期、後期、推薦、社会人、帰国子女

◆医(医)の定員増

◎ 医師養成の推進策と20年の定員増

医師の不足や偏在、診療科の偏りなどを解消するため、奨学金の設定など、一定の条件の下に20年入試から医学部(医)の定員増を暫定的に認めることになった。

20年はまず、医師不足が特に深刻な10県(青森・岩手・秋田・山形・福島・新潟・山梨・長野・岐阜・三重)及び自治医科大(私立)で増員(「新医師確保総合対策」; 18年8月策定。以下、「新対策」)。また、「新対策」とは別に、医師不足への抜本的な解消に向け、全都道府県を対象とする医学部(医)定員増を認める医師養成の推進策(「緊急医師確保対策」; 19年5月策定。以下、「緊急対策」)が講じられることになった。

こうした「新対策」(国立8大学80人、公立1大学10人、私立2大学20人)と「緊急対策」(公立6大学63人)によって、20年の医学部定員は、国立大4,165人(入学定員3,960人、編入学205人)、公立大728人の合計4,893人となった。なお、私立大の定員2,900人と合わせた国公立大の医学部(医)の総定員は7,793人となり、ピーク時(昭和57年度)の8,280人の94.1%まで増員された。因みに、医師養成の抑制策が採られていた19年度の総定員は7,625人であった。

◎ 21年の定員増

21年の医学部(医)の定員については、前記の「緊急対策」による各都道府県5人(北海道は15人)の増員に加え、前述の『骨太の方針2008』において、医学部(医)の入学定員を「過去最大級まで増員」することが決定している。

こうした措置を踏まえ、21年入試では、国立42大学361人(他に編入学32人。増員後の定員<編入学含む>は4,528人；表6参照)、公立8大学80人程度、合計440人程度の増員が予定されている。

私立29大学320人程度の増員も予定されており、国公立大学の全医科大学・学部79大学で約760人の増員となり、総定員(編入学含む)は8,560人程度になる。これは20年より767人(9.8%)増え、前述のピーク時より280人増(編入学含む)となる。

こうした医学部(医)の増員策における募集方法をみると、出願資格を地元出身者に限定する「地元枠」や、募集は全国対象だが、卒業後の一定期間、地元勤務を条件に奨学金等を支給する「地域医療枠」などの推薦・AO入試が多い。

なお、21年医学部(医)の各大学の定員数については、国立大は予定として提示(表6参照)されているが、公私立大については20年10月末までに文部科学省に認可申請し、11月には各大学から確定前の「認可申請中」として発表されるものとみられる。また、選抜方法等については、国立大も含め、各大学のホームページ等で確認する必要がある。

(表6)

●21年国立大医学部(医)定員増一覧

大学名	定員		大学名	定員		大学名	定員	
	増員	増員後の定員		増員	増員後の定員		増員	増員後の定員
北海道大	5	100	山梨大	10	120	徳島大	10	105
旭川医科大	12	102	信州大	5	110	香川大	10	100
弘前大	10	100	岐阜大	10	100	愛媛大	10(5)	100
東北大	10	110	浜松医科大	10	105	高知大	10	100
秋田大	5	110	名古屋大	8	103	九州大	5	105
山形大	10	120	三重大	10	120	佐賀大	5	100
筑波大	8	103	滋賀医科大	8(2)	93	長崎大	5	100
群馬大	10(15)	95	京都大	5	105	熊本大	10	110
千葉大	10	105	大阪大	5	95	大分大	10	95
東京大	8	108	神戸大	5	100	宮崎大	5	105
東京医科歯科大	10	85	鳥取大	10(5)	85	鹿児島大	10	95
新潟大	10	115	島根大	10	95	琉球大	7(5)	102
富山大	10	100	岡山大	10	105	合 計	361(32)	4,321 (4,528)
金沢大	10	105	広島大	10	110			
福井大	10	105	山口大	10	95			

注① 筑波大-医学群(医学類)、金沢大-医薬保健学域(医学類)以外は、各大学とも医学部(医学科)。

② 「増員」欄の()内数字は2年次編入学の増員数。「増員後の定員」欄の()内数字は編入学を含む総定員数。

③ 東京大の定員は後期課程における医学科への進学定員。20年度の場合、定員100人に対し、理科3類(入学募集人員90人)から87人、理科2類から10人、その他の科類から3人の進学枠(進学振り分け制度)が設定されている。

④ 『21年度国立大学の入学定員について(予定)』(文部科学省、20年8月29日による)

< 2段階選抜 >

2段階選抜の実施予告大学・学部数は、国公立大全体では20年より7学部減の55大学(入試実施大学に対する割合35.3%)・164学部(入試実施学部に対する割合30.1%)である。内訳は、国立大が37大学(同45.1%)・117学部(同31.0%)、公立大が18大学(同24.3%)・47

学部(同 28.1%)となっている。

21年で廃止または緩和、新規実施または引き締めとなる主な大学・学部は次のとおり。

- ・**廃止または緩和**：筑波大一人文学類で緩和(前期；約5倍(募集人員に対する倍率)<以下、同>→約7倍、後期；約7倍→約10倍)／大阪大一文・外国語・人間科学・歯(前・後)と、経済・法・医<保健>(前)で廃止。経済(後期；約8倍→約10倍)及び理(後期；約7倍→約10倍)で緩和／福島県立医科大一医(後)で緩和(7倍→8倍)／埼玉県立大保健医療福祉(後)で廃止。同(前)で緩和(4倍→5倍)／名古屋市立大一医(前)で廃止／大阪府立大一工(中)で緩和(約10倍→約12倍)／和歌山県立医科大一保健看護(後)で緩和(8倍→15倍)、など。
- ・**新規実施または引き締め**：筑波大地球学類(後)で新規実施(約10倍(募集人員に対する倍率)<以下、同>)／群馬大一医(医)で新規実施(前期；約6倍、後期；約12倍)／東京医科歯科大一歯<歯>(後)で引き締め(約10倍→約6倍)／一橋大法・経済・商・社会(前)で引き締め(約3.4倍→約3.0倍)／名古屋大一医<医>(後)で新規実施(約15倍)／和歌山県立医科大一医(前)で引き締め(5倍→4倍)／熊本大一医<医>(前・後)で新規実施(約10倍)、など。

<2次試験の出願予測>

国公立大2次試験への出願動向は、セ試の平均点アップ・ダウンに強く影響される。平均点アップだと“強気出願”となり、国公立大や難関大(学部)への出願増がみられ、逆に平均点ダウンだと、“弱気出願”で科目数の少ない地元公立大や私立大への流出傾向がみられる。20年は、文系・理系ともセ試平均点が大幅にアップしたが、高校卒業生数が大幅減(前年比-5.1%)となったことなどから、国公立大2次出願者数(延べ数)は19年とほぼ同じの48万7,777人(前年より750人、0.2%減)であった。

21年の大学受験生数は20年より5千人程度の減少で66万5千人ほどが予測されるが、2次出願者数は20年とほぼ同じ48万8千人前後になるとみられる。

推薦・AO入試

一般入試の「後期」縮小・廃止に伴い、「推薦・AO」入試が拡大。
医学科での「地域枠推薦」が拡大。

<推薦・AO入試：国立大15.2%、公立大24.7%>

21年の推薦入試及びAO入試の募集人員の状況をみてみよう。

推薦入試は、国立大1万1,953人(全募集人員に占める割合12.4%)、公立大5,973人(同23.0%)。AO入試は、国立大2,649人(同2.8%)、公立大431人(同1.7%)。「推薦・AO入試」合計では、国立大15.2%、公立大24.7%で、ともに過去最高となっている。

推薦・AO入試は前述したように、後期の縮小・廃止に伴う拡充がみられる。また、最近の推薦入試は、国立大の教員養成系での「地元枠」に加え、20年から始まった医学部(医)での「地域枠」推薦なども多くみられる。

なお、21年入試において、全学で推薦・AO入試を実施しない大学は、次のとおり。

- ・**国立大**：東京大／東京芸術大／京大

・公立大：京都市立芸術大／福岡女子大

＜推薦入試の新規実施大学・学部＞

21年入試で推薦入試を新たに導入する主な大学・学部は、次のとおりである。

旭川医科大－医(看護)／千葉大－理(地球科学)／東京医科歯科大－医(保健衛生<検査技術学>)／一橋大－商／信州大－理(物理科学・化学)／金沢大－医薬保健学域(医学類)／岐阜大－教育(学校教育<音楽>)／鳥取大－医(生命科学)・地域(地域文化<芸術文化>)／広島大－医(医)／長崎大－教育(中学＝数学・技術・家庭)／鹿児島大－教育(学校教育<国語>)・歯／岐阜薬科大－薬(中)／名古屋市立大－医(医)／奈良県立医科大－医(医)、など。

＜AO入試の新規実施大学・学部＞

21年入試で新たにAO入試を実施する大学・学部は、次のとおりである。

- ・国立大：弘前大－医(医)／東北大－文／千葉大－理・工・園芸(3学部とも「理数大好き学生選抜」)／信州大－農／金沢大－医薬保健学域(薬学類・創薬科学類)／奈良女子大－文／九州大－教育／佐賀大－文化教育(学校教育＝音楽、人間環境＝健康福祉・スポーツ)、など。
- ・公立大：高知女子大－文化／北九州市立大－地域創生学群(通常枠)／北九州歯科大－歯、など。

注. 東北大・千葉大・信州大・金沢大・九州大・高知女子大は、他学部で既に実施。

その他の選抜

専門・総合選抜／帰国子女・社会人特別選抜

専門・総合選抜は10大学13学部で実施。

社会人特別選抜は96大学183学部で実施。

＜専門・総合選抜＞

専門高校や総合学科を対象とする専門高校・総合学科卒業生選抜は、国立9大学12学部、公立1大学1学部の計10大学13学部(20年10大学15学部)で実施。(表5参照)

岩手県立大－看護・ソフトウェア情報の2学部で廃止となるが、ソフトウェア情報学部では推薦入試の一部(50人中20人)を専門・総合枠に充てる。

なお、一橋大－商では、専門高校生(商業に関する科目修得等)対象のAO入試(セ試免除)を廃止し、セ試を課す「専門高校推薦入試」を新規実施する。

＜帰国子女・社会人特別選抜＞

帰国子女特別選抜は98大学273学部(20年99大学278学部)、社会人特別選抜は96大学183学部(同95大学183学部)である(表5参照)。